

## 岡山県におけるてんかんの地域診療連携

研究分担者：小林勝弘 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 発達神経病態学  
(岡山大学病院 小児神経科、てんかんセンター)

### 研究要旨

岡山県におけるてんかんの地域診療連携の状況を調査研究するにあたり、てんかん診療拠点機関の岡山大学病院における調査を承認されている小児神経科の診療状況を集計した。2017～2018年度の間と同科を受診した初診患者は合計 154 人であり、難治例と思しい症例が多かった。

### A. 研究目的

岡山県におけるてんかんの地域診療連携の状況を調査研究するにあたり、てんかん診療拠点機関の岡山大学病院において調査を承認されている手段に拠る必要があったため、同院小児神経科の診療状況を集計した。この集計データは今後の岡山県全体でのてんかんの診療連携状況調査の足掛かりになると考える。

### B. 研究方法

現時点の岡山大学病院の患者情報の集計に関し、倫理審査で調査を承認されている範囲の 2017～2018 年度での小児神経科の診療状況から、この間と同科を初診で受診したてんかん及びてんかんと鑑別が必要な疾患の患者の集計を行った。岡山大学病院の中で小児神経科はてんかん診療の中核を伝統的に成しているため、本県のてんかん診療の一側面を表すと考える。

#### （倫理面への配慮）

本研究は診療情報の収集のみに拠ってお

り患者への侵襲を伴わないため、生命倫理や安全面での問題は該当しない。研究では個人情報明らかになることはない。本研究報告の内容を含む計画は既に岡山大学倫理委員会において承認（研 1911-024）されている。同意取得はオプトアウトに拠っている。

### C. 研究結果

岡山大学病院小児神経科の診療状況で 2017～2018 年度の間初診患者の集計結果を表 1 に示す。

同科の総新患数は 2017 年度は 86 人、2018 年度は 68 人であり、計 154 人の中、男性 83 人 (53.9%)、女性 71 人 (46.1%)、年齢群別では乳児期 28 人 (18.2%)、1 歳～5 歳未満 37 人 (24.0%)、5 歳～10 歳未満 32 人 (20.8%)、10 歳～18 歳未満 51 人 (33.1%)、18 歳以上 6 人 (3.9%)、居住地は岡山県内が 75 人 (48.7%)、岡山県外は 79 人 (51.3%)、受診理由は診断目的が 41 人 (26.6%)、治療方針のコンサルテーションが

64人(41.6%)、外科治療目的が5人(3.2%)、転院が36人(23.4%)、その他が10人(6.5%)であった。総じて難治例が集まっていることが伺える。

表 1. 2017～2018年度に岡山大学病院小児神経科を受診したてんかんの初診外来患者の集計

項目	2017年度	2018年度	計
総新患者	86	68	154
性別			
男性	44	39	83
女性	42	29	71
年齢群			
乳児期	12	16	28
1～5歳未満	16	21	37
5～10歳未満	21	11	32
10～18歳未満	33	18	51
18歳以上	4	2	6
住所			
岡山県内	45	30	75
岡山県外	41	38	79
受診理由			
診断	34	7	41
治療方針	43	21	64
外科適応	3	2	5
転院	6	30	36
その他	0	10	10
病因*			
特発性	15	17	32
潜因性	18	11	29
症候性	27	30	57
てんかん以外	26	10	36
てんかん病型			
焦点	40	24	64
全般	14	23	37
全般焦点合併	5	9	14
病型不明	1	2	3

\*旧分類による

## D. 考察

今年度の集計研究により診療状況に関する一定の情報は得られたと考える。今後の課題は、岡山大学病院における脳神経外科、脳神経内科、精神科領域の情報も併せ、再来患者の情報も網羅し、より詳細な患者診療状況を把握することである。

## E. 結論

岡山大学病院は岡山県のてんかん診療

の中心的存在であることを確認できた。小児神経科はその中でも主要部分を占めるが、今後の更なる集計分析が必要である。

## F. 健康危険情報

該当なし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Inoue T, Akiyama T, Hanaoka Y, Oka M, Kobayashi K. A case of vitamin B6-responsive West syndrome caused by severe traumatic brain injury. *Epilepsy & Seizure*. 2019; 10 (1): 114-119. (査読有)
- 2) Ohuchi Y, Akiyama T, Matsushashi M, Kobayashi K. High-frequency oscillations in a spectrum of pediatric epilepsies characterized by sleep-activated spikes in scalp EEG. *Clin Neurophysiol*. 2019; 130 (10): 1971-1980. (査読有)

### 2. 学会発表

- 1) Kobayashi K. Significance of epileptic high-frequency oscillations on electroencephalogram in pediatric epileptic encephalopathy. International Symposium on Neural Oscillation 2019: Session 4 Challenging epilepsy. Kyoto: 2019年11月19日.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

該当なし。

### 2. 実用新案登録

該当なし。